

令和6年度 中央中学校「学ぶ力」育成プログラム

関わりを通して、自らの未来を切り拓く生徒の育成

学校番号：31002

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
◇コミュニケーション能力や問題解決能力、他者を尊重する意識が高い。また、新しい知識を他の場面で応用しようとする姿勢も見られる。特に、生徒は他者との関係性を大切にしているため、協働的な学びの環境が整っている。	◇自分の意見を積極的に発言する力や、目標設定および計画的な学習、失敗を恐れずに挑戦する意欲がやや低い。具体的な学校全体の取り組みとしては、ディベートやプレゼンテーションの機会を増やす、学習計画を立てるサポートを強化する、失敗を恐れずに挑戦できるようなプログラムを検討し、導入していく。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
【現状】生徒は自分自身の良さを認識し、他者の良いところを見付けようとする姿勢が高く、他者に貢献することに喜びを感じるなど、他者との関係において非常に高い意識をもっている。また、社会貢献への意識も高く、将来的に人の役に立つ人間になりたいと考えている生徒が多い。	
【課題】「自分が必要とされている」と感じる生徒の割合がやや低い。生徒一人一人の個性や役割を認め、自己有用感や自己肯定感を高めることができるような授業や自治的活動をマネジメントしていく。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自己承認と他者承認を促進する力 自己発信力と他者との対話能力 自己管理能力（時間管理、目標設定）

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	<p>Anticipation（見通し） 目標設定（学習の課題設定）と計画</p> <p>Action（行動） ICTを活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の推進。</p> <p>Reflection（振り返り） 成果の評価とフィードバック [フィードバックの具体例] 生徒⇄生徒 教師⇒生徒 保護者・地域の方々・専門家等⇒生徒 ※「学びのコントローラーをもっているのは子ども自身」を意識</p>	<p>◇生徒会活動や学級活動を通して、生徒が主体的に課題を解決する経験を積む。</p> <p>◇「プラスのまほう」に基づく活動を取り入れ、相互承認を促進する場を設定する。</p> <p>◇パートナー校や地域と連携を図りながら、生徒が実社会で役立つ知識や技能を習得する機会を設定する。</p>

〈本プログラムの実行に向けて〉

